

夏秋ピーマンの露地栽培における全量基肥施肥技術

農業研究部

1. 研究の背景

長期にわたって連続的に収穫を行う夏秋ピーマン栽培では、根の活力を良好に維持し、樹勢を維持するための肥培管理が生産安定にとって最も重要となる。

特にほ場立地条件などから液肥での追肥が困難な露地栽培では、肥効を栽培後期まで維持させる肥培体系の確立が重要である。

そこで、夏秋ピーマン露地栽培での生産の安定化を図るために、生育に適した養分供給を図る肥培管理体系を確立した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

ピーマンファミリーとスーパーエコロングの溶出パターンを把握し、ピーマン栽培の全量基肥施肥において最適な施肥方法を検討した。

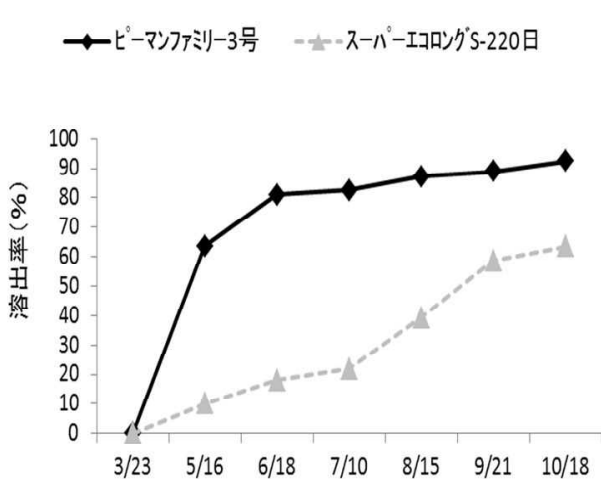


図1 肥料の窒素溶出率

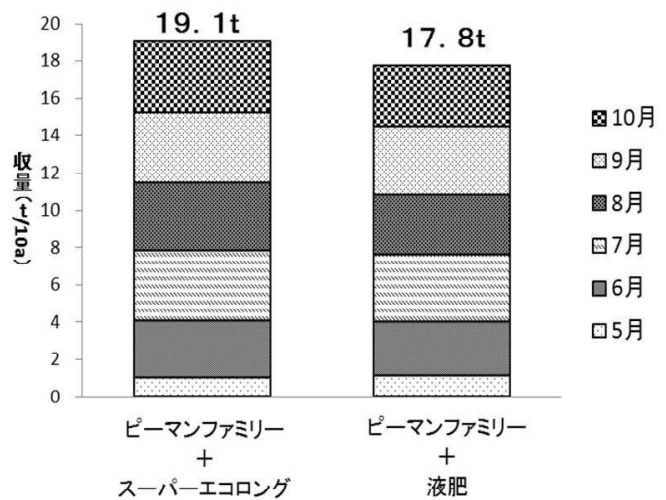


図2 肥培管理の違いによる可販果収量

- ・スター肥料のピーマンファミリー3号は、5月中旬で64%、6月中旬には81%の窒素成分が溶出したことから、6月上旬までは肥効が維持される。
- ・スーパーエコロングS-220日は、初期の溶出が20%以下に抑えられており、9月下旬でも59%程度の溶出にとどまっている（図1）。
- ・ピーマンファミリー+スーパーエコロング区とピーマンファミリー+液肥区（大野慣行）の比較は、各試験区で可販果収量は同等であった（図2）。

3. 期待される効果

全量基肥用肥料を、ピーマンファミリーとスーパーエコロングを組み合わせることで、液肥で追肥を行う大野慣行栽培と同等の収量が得られたことから、液肥で追肥が困難な露地栽培などで利用できる。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 土壌・環境チーム

TEL：0974-28-2072

住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8